2023 年 11 月　青山学院高等部　生物基礎　特別授業

青山学院高等部 1 年生の「生物基礎」でプレパパ・プレママ教室を実施しました。青山学院高等部では 2019 年から継続して授業をさせて頂いており、例年は、学年のまとめの位置づけで生物基礎の最後の授業で実施していました。今年度は、生物で遺伝の学習を終えたタイミングでの授業を先生方に提案していただき、11 月 20～22 日、29・30 日の期間で、10 クラスで授業しました。

青山学院高等部で実施するプログラムは 50 分授業 2 コマで構成するため、ディスカッションの時間を十分とることができることが魅力です。生徒の多くは小学・中学から共に学んだ仲間であり、お互いの個性を認めあうことが自然な形で培われていると伺いましたが、その雰囲気がグループワークから伝わってきました。

“プレパパ・プレママ教室”では、NIPT 模擬検査、NIPT 陽性後の確認検査として羊水検査を受けるかどうかについて、お互いの考えを知るためにディスカッションを行います。

ディスカッション前では、NIPT を受検したい 62%、受検したくない 14%、迷っている 24%でした。ディスカッションで、グループメンバーの意見を聞いての意見を紹介します。

・検査結果と向き合うことは、子どもと向き合うことになる
・男性/女性で検査に対する考えかたの違いを感じた
・検査について、様々な可能性があることが怖いと感じた
・その人が置かれている状況で、色んな気持ちや考えを持つことに気が付いた
・同じ情報でもメリットと捉えるかデメリットに感じるかは紙一重だと感じた

グループの意見を聞いたのち、実際に模擬検査を受検したのは 74.4%でした。

次に、全員が NIPT 陽性だったと仮定して、確認検査として羊水検査を受検するかどうかについてもディスカッションしました。羊水検査について説明した後の考えは、受検したい 25%、受検したくない 55%、迷っている 20%でした。

・赤ちゃんや母体への影響を最優先に考えるべき
・環境/体力/精神的な状態などが判断に影響しそう
・結果はどうあれ、検査を受けることには覚悟が必要
・確定診断を受けることが怖いと感じる人もいることがわかった
・女性の“怖い”気持ちは理解できるが、父親としては準備のために情報を得たい

ディスカッションで考えの違いを感じ、実際に羊水検査の受検選択は、30%でした。

生徒さんの中には、ご両親の考えや経験を聞いてきた人もいました。また、子どもを授かること/親になることについて、考えたことを教えてくれた人もいました。NIPT が陽性だった場合、どれくらいの妊婦が羊水検査を受検するのかとの質問がありました。実際は、陽性の場合は確認検査を受検することも含めて NIPT 受検の意思決定することを伝えると、「さらに判断が難しい！」と教えてくれました。授業の内容をしっかり受け止めてくれたことをとても嬉しく感じました。

今回は、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーコースを目指す大学院生など、この講義に関心を持って下さる方に参観していただきました。自分の子どもを持つにはちょっと早い時期に学習することのメリット/デメリットについて、非常に参考になるご意見を頂きました。難しい課題にしっかり取り組んでいる生徒さんの様子に非常に感銘を受けておられました。私が参観して下さる方と最も共有したいことは、生徒の皆さんは、まだ先のこととわかった上で、夫・父親/妻・母親の立場を一生懸命想像して考える様子、子どもの命を大事にしたい気持ちがとても強く伝わることです。これは、私達が“プレパパ・プレママ教室”をするうえで大きな励みになっています。

そして本学の修了生であり長崎大学病院認定遺伝カウンセラー・看護師の高尾真未さんが“プレパパ・プレママ教室”の担当デビューでもありました。この取り組みをより広げていけるよう、実践者の育成も力を入れていきたいと思います。

青山学院高等部１年生の皆さん、生物担当の武田先生、河野先生、原田先生、有意義な時間をありがとうございました。

文責：森藤　香奈子